

令和4年度 第3回 帯広市都市計画審議会専門部会 議事概要

日 時：令和5年1月10日（火曜日）15時00分～16時30分
場 所：帯広市役所 10階第2会議室
出席委員：小林部会長、河西委員、神田委員、紅葉委員（以上4名）
事務局：和田都市環境部長、篠原都市建築室長、
（都市政策課）岡田都市政策課長、中島都市計画係長、堀田主任補、三浦主任補
傍聴者等：報道関係者 4名
配布資料：会議次第、座席表、大空地区地区別構想（原案）、補足資料

【次第】

- 1 開 会
- 2 部長挨拶
- 3 部会長挨拶
- 4 議 題
大空地区地区別構想（原案）について
- 5 閉 会

【議事概要】

○議題 大空地区地区別構想（原案）について

事務局より大空地区地区別構想（原案）及び補足資料に基づき説明。

○委員からの主な意見

- ・静かなまち、笑顔あふれるまち、人が行きかい、など、それぞれゾーニングしないと矛盾してしまい、全部一緒にならないような感じがする。
- ・たくさんの人が行き交うことが、地区内だけの話なのか、地区外からも人を呼び込むのかによって考え方が変わってくる。
- ・大空を特別な地域にするために意見を言ってきたので、表現はすごく柔らかくて素敵だが、もう少し個性の出た計画になると良い。
- ・地区の現状として、緑があって、公園の整備があって、町内会の清掃も活発にされているということ、そして、空き店舗を活用して小商いが出来たら良い、ということは盛り込まれた。
- ・学生の話をしており、高校や大学が近いことから、様々な方が集まれば良いという話はした。
- ・補足資料は随分良くまとめられているが、地区別構想を未来の子供への贈り物とするなら、まだ詰める部分があるのではないかと。
- ・地区の交通量が少なく住みやすいと、外の商業施設へ買い物に出かけてしまっている、では相反しており、どちらを優先するか悩むものが見受けられた。

- ・住民やこれから住もうと思っている人達の中には、ここで生き生きとした生活をしたり、子育てしながら、いろいろなことをやりたいと思っている人達がたくさんいる。その人達と自治会の人や企業や行政と協働しながら、どのように実現させていくのかを考えることが大事である。
- ・現状の部分は長く書かずに、1行程度のものがたくさんある方が分かりやすい。
- ・民間の取り組みや、実際に活気を生み出そうとしている現状にも触れるのが良い。
- ・まちのツボのイメージ図は書いているが、まちのツボが何かイメージしにくい。
- ・まちのツボを国に説明すると、それをローカルハブと表現しており、今はローカルハブの方が通りが良くなっている。
- ・6として「実現の方策」を追加し、これからどんどん進めていくことを検討する、という書き方をしておいても良いのではないか。
- ・都市マスよりもスケールが小さく実現性が高い大空はまとまりが良く、大空らしい実現の仕方があるのではないか。
- ・課題をもう少しきちんと書くことが大事だと思う。それはこの1、2年では解決するものではないので、これからどうなるのか、方向性に希望が持てるような内容が一言あれば良いと思う。議論の場があると思うと、住民として参加できる。都市計画の規制ばかりではなく、新しいものができるときの住民がどういう心構えで良いのか分かったら、住民が参加してみようとなるのではないか。
- ・今までは、都市行政とまちづくり行政と交通行政はバラバラだった。しかし、高齢者が増加し、免許をどうするのか、人の暮らしを誰が担保するのかという時に、これらを一緒に考えなければならないのではないか。
- ・大空地区は、帯広市内からスプロールしたところではなく、自立していることから、都市行政とまちづくり行政と地域の交通行政がうまくドッキングしながら独自のシステムを構築することができるのではないか。
- ・国交省でも「ローカルハブの共創によるまちのり・デザイン」というのが共通になりつつある。今までの古い都市計画法に基づいて古い都市計画の考え方でやってきた。まちを皆でいかに使っていくのか、皆の知恵を出しながら活用していくのは都市計画法ではないが、それをやらないと人口減少や高齢化などの問題が解決できない。だから「共創」「ローカルハブ」が国の共通になりつつあり、大空はそのモデルになる非常に良い場所だと思う。
- ・何か新しいことを先進的に取り組める場という説明をしながら、地域の方々と社会実験を進めていくと、いろいろなことができるのではないか。
- ・社会実験の一つとして、静岡のあるまちで夜間照明の社会実験を行った。照明は点けてみないと分からない。ギラギラしたり大きすぎて嫌なこともあるかもしれないが、高さの工夫により、視認性も良くなるし、犯罪の危険性も少し減るということもある。まちはちょっと変わるとガラッと変わっていくきっかけになる。それが重なり3～5年経つと、変わると思う。

- ・街灯について、例えば大空に照明のような感じで工夫して設置されるだけでも、居住環境としてすごくおしゃれで、素敵なエリアに変わると思う。きっと多くの人が、それがきっかけで大空の方を向くようになって、少しでも変わっていけば、更に良くなっていくと感じた。
- ・これから大空地区に住もうと思って入っている、30代40代ぐらいの若い世代や高校生の話を聞くことに意味があり、このまちの価値が増えていくと思う。
- ・人と人のつながりや心の拠り所になるようなまちづくりは、安全という事ばかりではなく、人と人のつながりが見える、ワクワクする、そういうまちなんだろうと思う。
- ・1階でちょっとしたカフェや奥さん達の手芸の教室などがあると、人がいるのが見える。生きてる、楽しく、それが分かるようなまちというのを、多分、これからの皆さんが求めるのではないかな。それで、この中に入った10㎡は、いわゆる住宅だけしか作れないところでも、10㎡あれば出来るので、用途変更しなくても良い。